

隠された中央・総武緩行線ワンマン試行 列車遅延の理由は「言うな」



中央・総武緩行線

JR東は中央・総武緩行線のワンマン化を来春に強行しようとしています。すでにワンマン運転の試行が開始されていますが、会社はこのことをひた隠しにしようとしています。

「ワンマンで遅れたと言うな」?!

ワンマン運転試行では当然にも遅れが発生しています。しかし、乗客には何のアナウンスもなく、運転士の乗り継ぎ時には「遅延理由をワンマン試行のためとは言うな」とまで言われています。

本来、列車の遅れが1分でも理由は次の運転士に伝えなければなりません。乗務後の報告書にもわずかな遅延でも理由を含めて書かれています。それをねじ曲げてでも隠そうとしています。

現れているのはワンマン化の矛盾です。昨年ワンマン化を強行した南武線では10分以上の遅れが2倍以上になり、社会問題化しました。またもワンマン化で遅れが多発と

なればどうなるか—会社はそれを恐れているから「隠せ」という指導まで横行しているのです。

ワンマン化撤回の声をあげよう！

ワンマン化は喜勢社長が宣言した「車掌1100人削減」攻撃であり、乗務手当廃止と一体でどこまでも乗務員を踏みこむ攻撃です。本心に許せません！

総武緩行線を担当する津田沼の乗務員区では、車掌の仲間に異動先の希望調査も進められ、会社はワンマン化を「既成事実化」しようとしています。異動を強制される中で、すでに退職してしまつた仲間もでています。

運転士にとっては激しい労働強化です。車掌が担ってきた乗客対応や異常時対応をはじめ、すべての責任と負担が押し付けられるのです。長編成の列車で、混雑したホームをモニター越しに確認しながらドアを開閉させ、一人で安全を守らなければならぬのです。

モニターやホームドアでは解決しません。試行段階で遅延を繰り返していることから明らかにです。会社も矛盾を理解しているからワンマン運転の試行そのものを隠そうとしているのです。

会社の攻撃の前提は、「職場から声が上がらない」ことです。だからこそ、職場に闘う労働組合を取り戻すことが最大の反撃です。動労千葉とともに「ワンマン化撤回」の声をあげよう。